

FY2025 3Q

2026年3月期 第3四半期決算説明資料

2026年2月13日

品質向上のトータルサポート企業

バルテス・ホールディングス株式会社
(証券コード：4442)

CONTENTS

1.	エグゼクティブサマリ	P.3
2.	第3四半期決算概況	P.9
3.	業績見通し	P.27
4.	生成AIテストツール開発投資方針	P.31
5.	成長戦略（新中期経営計画）	P.34
6.	ソフトウェアテスト事業環境	P.38
7.	自社の強み	P.42
8.	会社概要	P.49

※ 前期3Q以降及び当期1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、当期1Qまでに開示した数値と異なります。

1

エグゼクティブサマリ

エグゼクティブサマリ (前年同期比)

		実績	前年同期比	
売上高		87.0 億円	+10.5%	 前年同期比+10.5%の過去最高売上
営業利益		5.4 億円	+1.3%	 各事業堅調に拡大し売上総利益率増加 AI投資で販管費増加も、営業利益増加
親会社株主に 帰属する四半期純利益		3.3 億円	▲2.5%	
単価 (ソフトウェアテスト)		841 千円	+43千円	 単価は前年同期比で増加
案件数		5,398 件	+1,448件	 総案件数は順調に増加 (内、ツール案件数は前年同期比+644件)
稼働エンジニア数 (2025年12月末時点)		1,321 名	正社員 +25名	 売上拡大に伴い、正社員・ビジネス パートナー共に増員
			正社員,契約社員,BP 合計 +126名	

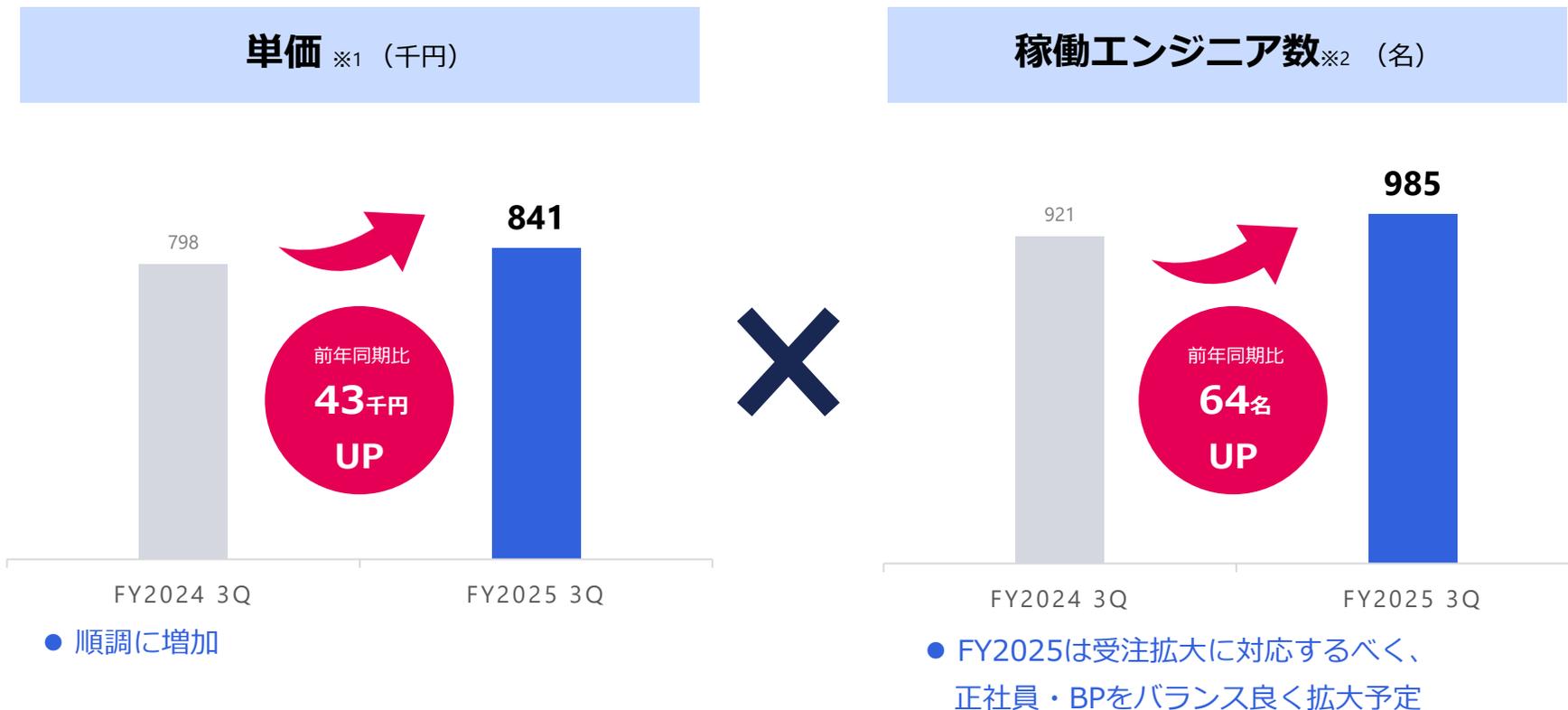
2026年3月期 生成AI関連投資の進捗

生成AI関連投資は2.2億円まで拡大、AI投資前営業利益も7.5億円と順調に進捗

※詳細はP29・P30をご確認ください

	3Q実績累計	年間計画額	対計画 進捗率	
AI投資額（総額）	2.2億円	4.0億円	56.3%	投資は想定内で推移（年間3億強を見込む）
AI投資額 PL影響額	2.1億円	-	-	一部資産計上した影響で、AI投資による3Q時点PLインパクトは2.1億円
営業利益	5.4億円	6.5億円	84.3%	前年同期を上回り推移
AI投資前営業利益 （営業利益 + AI投資PL影響額）	7.5億円	10.5億円	72.3%	AI投資影響を排した営業利益も前年同期を上回り好調に推移
参考 前期FY2024 営業利益	FY2024 実績※ 5.4億円	FY2024 実績※ 9.2億円	実績進捗率※ 58.3%	当期後半はほぼすべての開発コストがAI開発に切り替わっているため、AI開発コストそのものが対前期で純増しているわけではありません。従って前期営業利益と当期AI投資前営業利益を単純比較することはできない点ご理解願います

単価、稼働エンジニア数共に順調に増加



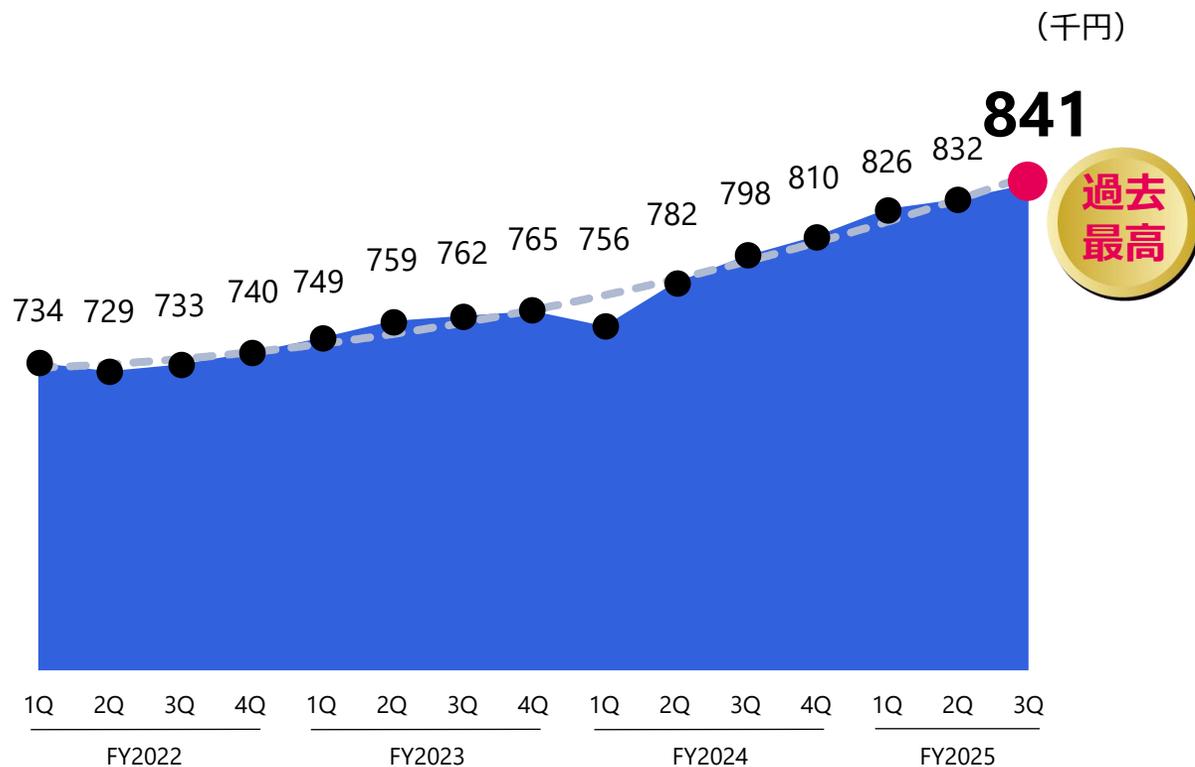
※1 単価（月間）＝ 国内ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ 国内エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）

※2 本項記載の数値に関しては、国内ソフトウェアテストのみの集計となるため、本資料のエグゼクティブサマリー記載の「稼働人員数」の数値とは異なります。

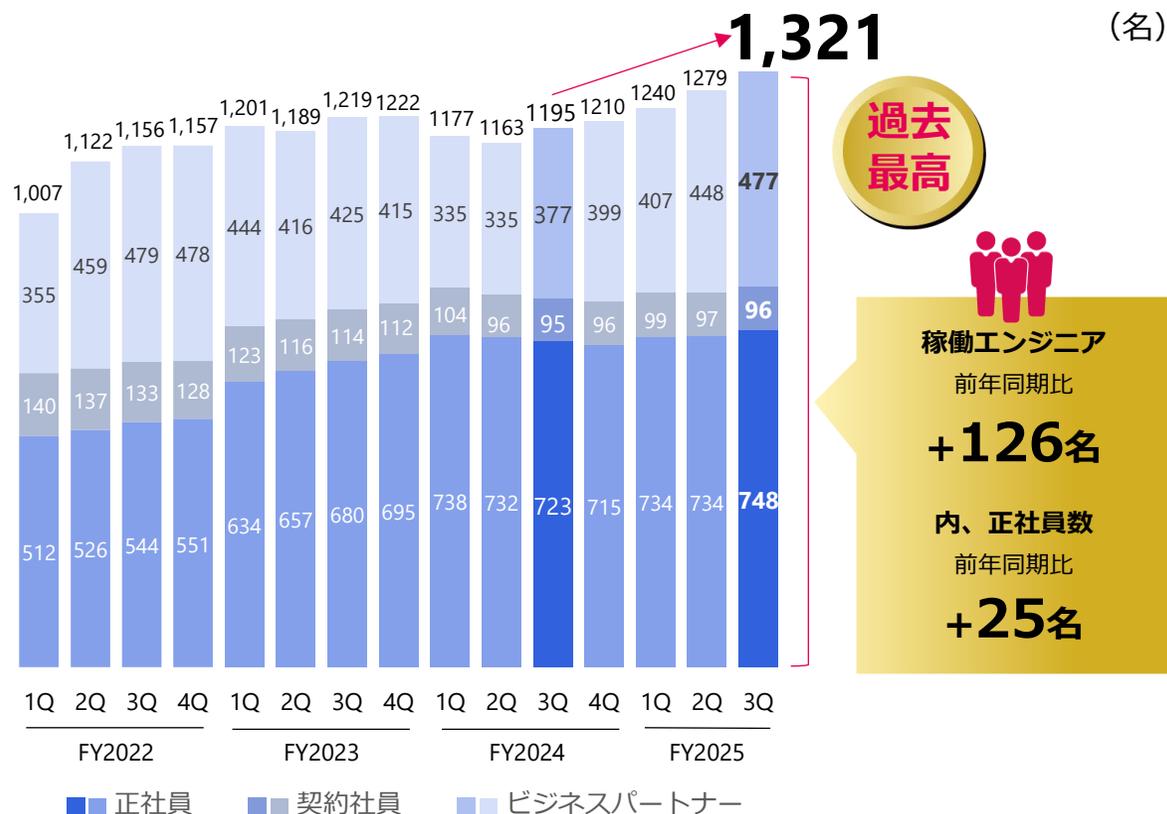
単価の推移（ソフトウェアテスト）、稼働エンジニア数の推移（連結）

単価841千円、エンジニア数1,321名、更なる成長へ向け稼働エンジニア数を順調に拡大

エンジニア1人当たりの売上高（月間）※（ソフトウェアテスト）



稼働エンジニア数（連結）



※ エンジニア1人当たりの売上高（月間） =
ソフトウェアテストの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）



第12回ホワイト企業アワード「働きがい×働きやすさ両立部門」を受賞

- ・ **働きがい**と**働きやすさ**を高いレベルで両立する取り組みを**評価**



「株式会社FUNDINNO」が東京証券取引所グロース市場へ上場

- ・ 出資および業務提携をおこなう株式会社FUNDINNOが、
2025年12月5日付で**東京証券取引所グロース市場へ上場**



当社の技術力が評価され複数の重要インフラの大型案件支援を実施

- ・ 当社の技術力が**評価**され、金融、決済、医療といった**高い品質**を求められる重要インフラ領域において**大型案件支援を実施**



エンジニアのJSTQB®取得率95%を達成

- ・ 育成設計の標準化により、ソフトウェアテストに関する技術者資格であるJSTQBの取得率が**95%**を達成。



ツールビジネス好調

- ・ 前年同期比**96.6%増 (+644件増)**



子会社のRSRにて「AI駆動開発 (AI-DLC)」の提供開始

- ・ 仕様変更・改善・引き継ぎを前提に設計する「**AI駆動開発 (AI-DLC)**」を2026年2月に**提供開始**

2

第 3 四半期決算概況

営業体制整備の効果により、案件数は**増加傾向**、売上高は**過去最高**
 AI投資等の影響で販管費は増加するも、営業利益は**増加**

	FY2024 3Q累計		FY2025 3Q累計			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	7,876	100.0	8,705	100.0	+829	+10.5
営業利益	541	6.9	548	6.3	+7	+1.3
EBITDA ※	725	9.2	759	8.7	+34	+4.7
経常利益	541	6.9	546	6.3	+5	+1.0
親会社株主に 帰属する四半期純利益	341	4.3	333	3.8	▲8	▲2.5
1株当たり四半期純利益 (円)	16.96	-	16.84	-	-	-

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費で算出

売上高、営業利益 四半期推移 (会計期間)

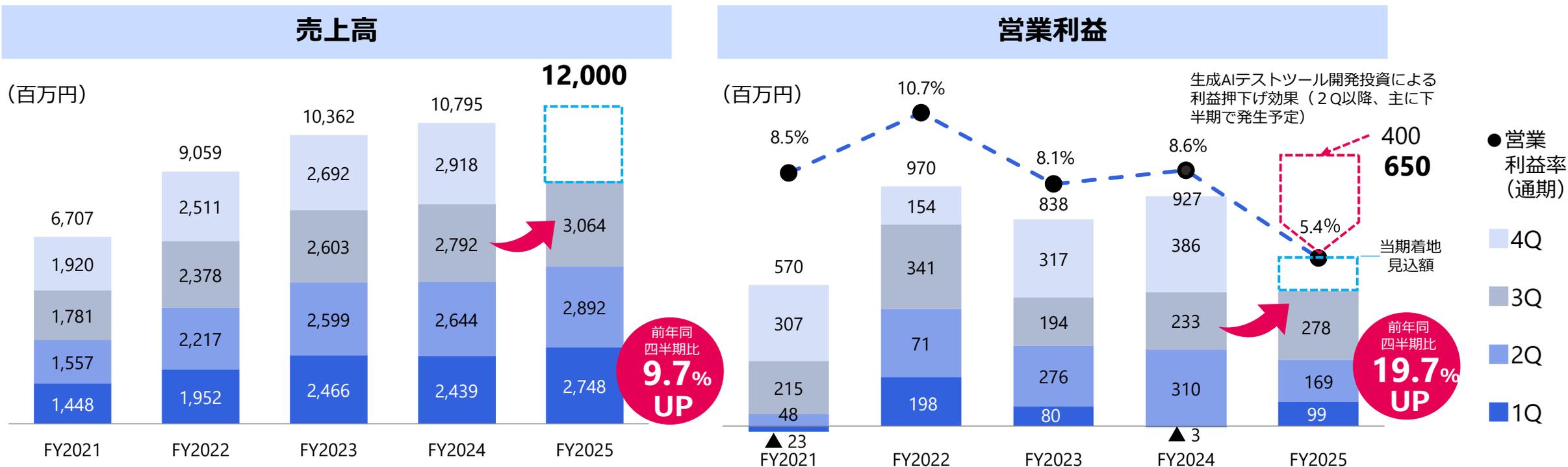
売上高

営業体制整備の効果により案件数は増加傾向、第3四半期売上高としては過去最高

営業利益

各事業堅調に事業拡大し売上総利益率は前年同期比で増加

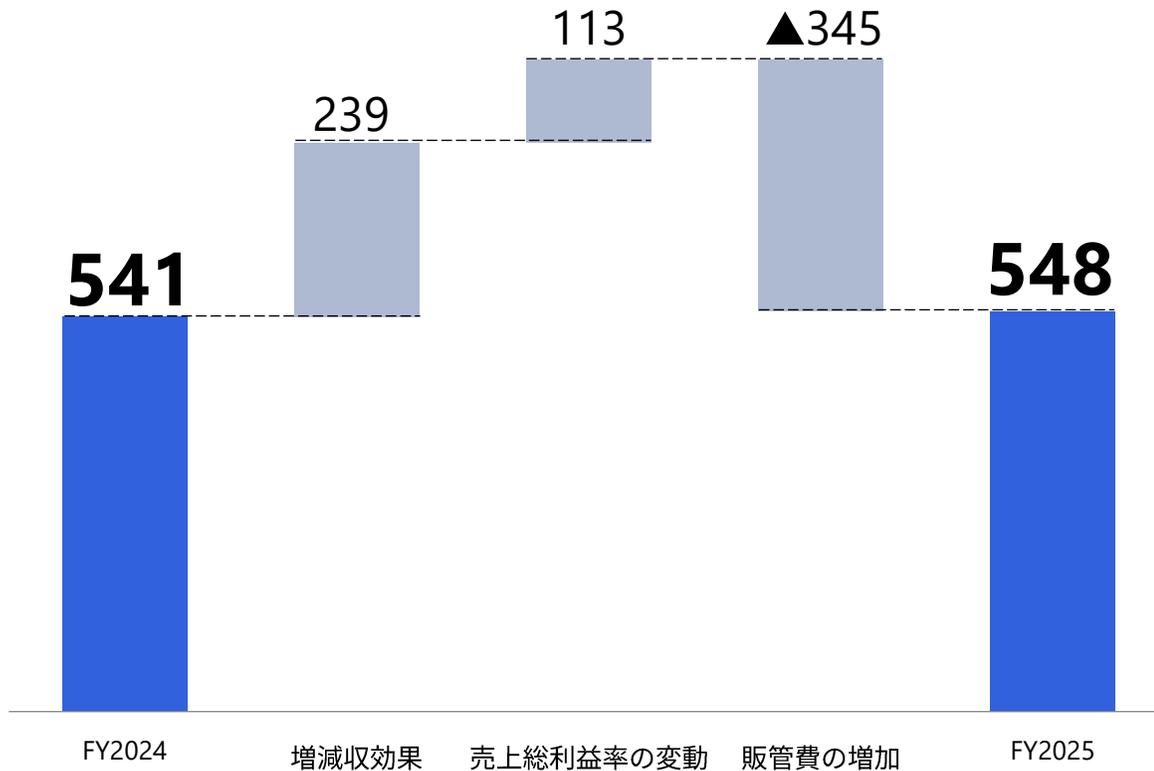
AI投資の影響で販管費増加するも営業利益は増加



※ 前期3Q以降及び当期1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、当期1Qまでに開示した数値と異なります。

各事業好調、生成AI投資等で販管費増加するも営業利益は548百万円と前年同期を上回る

(百万円)



増減収効果 +239	ソフトウェアテスト +224 開発 +4 セキュリティ +11
売上総利益率の変動 +113	ソフトウェアテスト事業においては、本業の利益率好調も、ツールのリリースに伴う償却開始や東京本社増床等、労務コスト以外の原価が増加。一方開発事業はタビュラ社グループインの影響もあり大幅改善
販管費の変動 ▲345	ソフトウェアテスト ▲57 開発 +146 セキュリティ +24
	株主優待コスト、東京本社増床コストのれん償却費、その他販管費が増加
	人件費 ▲6 採用費 ▲15 研究開発費 ▲117 その他 ▲206

生成AIに関する研究開発費およびその他販管費が大きく増加し販管費345百万円増

	FY2024 3Q単 (百万円)	FY2025 3Q単 (百万円)	FY2024 3Q累計 (百万円)	FY2025 3Q累計		
				(百万円)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	646	701	1,731	2,077	+345	+20.0
人件費	249	241	718	725	+6	+0.9
採用費	73	76	213	228	+15	+7.2
研究開発費	13	75	48	165	+117	+240.9
その他	310	308	751	957	+206	+27.5

人件費	+6	組織拡大に伴う増加
採用費	+15	計画通り※
研究開発費	+117	生成AI投資を含め計画通りに進捗
その他	+206	タビュラ社グループインによるのれん償却、株主優待コスト、東京本社増床コストその他販管費※

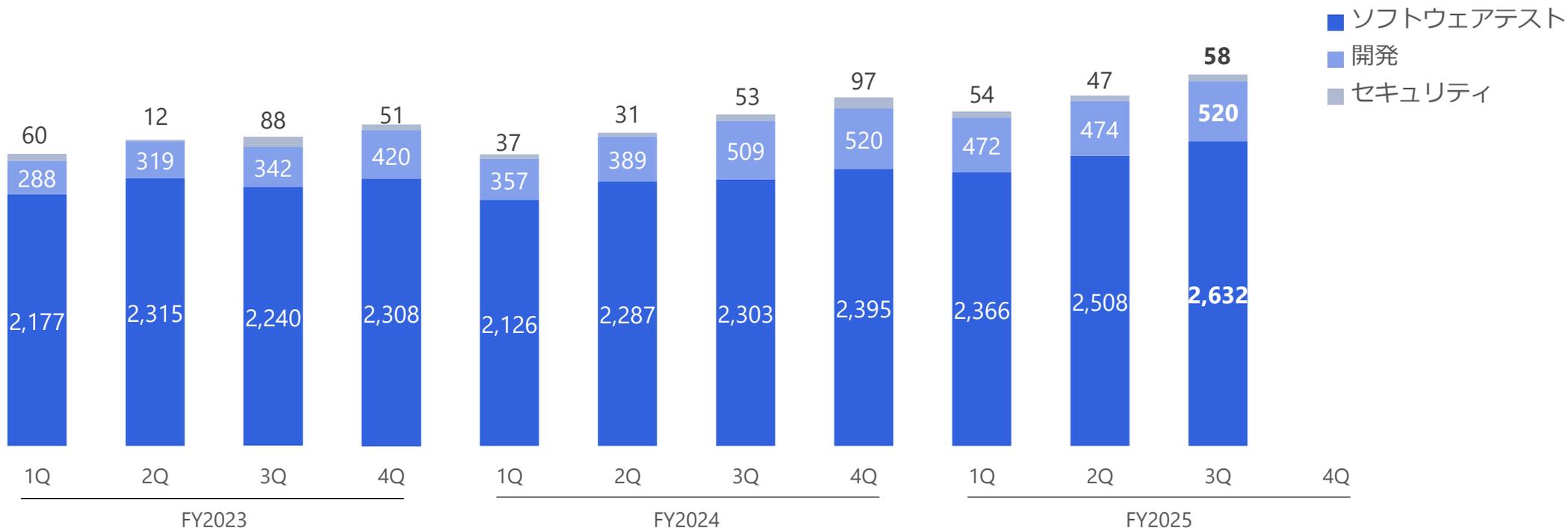
※各販管費にはP29記載のAI関連投資額を含みます。

事業別セグメント実績

	FY2024 3Q累計		実績 (百万円)	FY2025 3Q累計		
	実績 (百万円)	利益率 (%)		利益率 (%)	前年同期比 (%) (pt)	
売上高	7,876		8,705		+10.5	
ソフトウェアテスト	6,717		7,507		+11.8	
開発	1,257		1,467		+16.7	
セキュリティ	122		161		+31.7	
連結消去	▲220		▲429			
営業利益 (利益率)	541	(6.9)	548	(6.3)	+1.3	(▲0.6)
ソフトウェアテスト	739	(11.0)	566	(7.6)	▲23.4	(▲3.4)
開発	▲130	(▲10.4)	38	(2.6)	-	(+13.0)
セキュリティ	▲6	(▲5.6)	▲2	(▲1.9)	-	(+3.7)
連結消去	▲61		▲54			

各セグメント 前年同期に比べて順調に売上増加、連結3Q売上高は過去最高

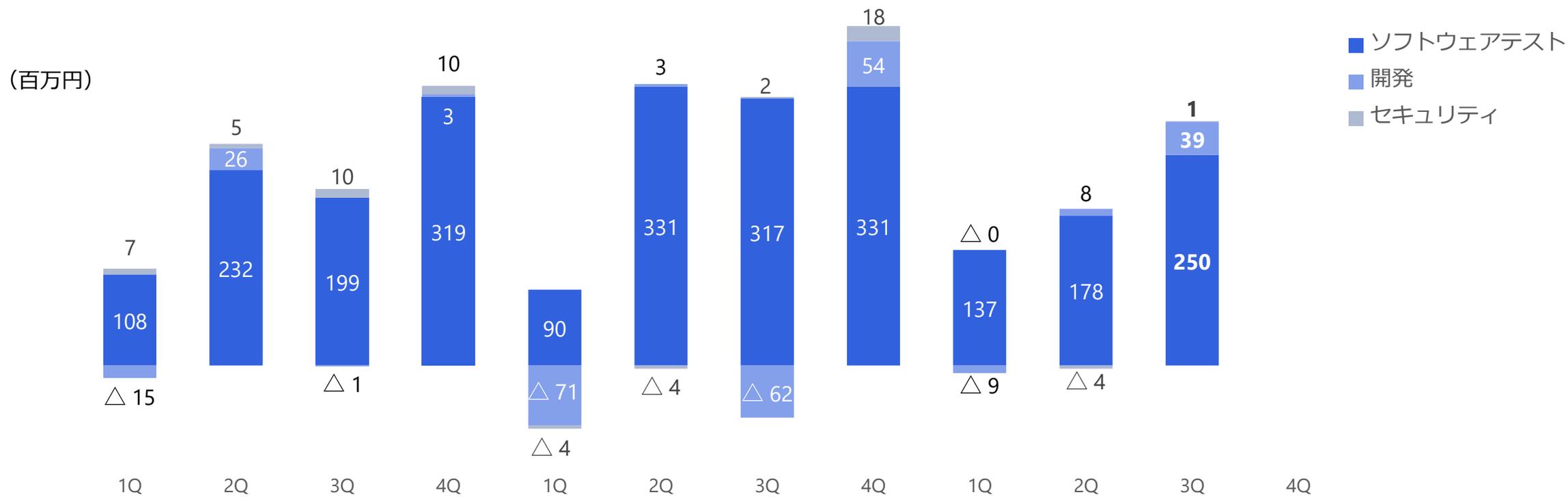
(百万円)



連結3Q 売上高	7,669百万円	7,876百万円	8,705百万円
-------------	----------	----------	----------

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、
 タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。
 ※ 各セグメント売上の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結売上高は異なります。

AI投資増加等により販管費増も、3Q累計営業利益は前年同期比で増加



FY2023

FY2024

FY2025

連結3Q 営業利益	520百万円	541百万円	548百万円
--------------	--------	--------	--------

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。

※ 各セグメント営業利益の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結営業利益は異なります。

※ 前期3Q以降及び当期1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、当期1Qまでに開示した数値と異なります。

	FY2024 3Q累計		FY2025 3Q累計			
	実績 (百万円)	売上高比 (%)	実績 (百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	7,876	100.0	8,705	100.0	+829	+10.5
売上原価	5,603	71.1	6,080	69.8	+476	+8.5
労務費	3,520	44.7	3,714	42.7	+193	+5.5
外注費	1,770	22.5	2,046	23.5	+276	+15.6
その他	312	4.0	319	3.7	+7	+2.4
販管費	1,731	22.0	2,077	23.9	+345	+20.0
人件費	718	9.1	725	8.3	+6	+0.9
採用費	213	2.7	228	2.6	+15	+7.2
研究開発費	48	0.6	165	1.9	+117	+240.9
その他	751	9.5	957	11.0	+206	+27.5

バランスシートの状況

資産の部	FY2024	FY2025 3Q末	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
現金及び預金	1,937	2,191	+254
受取手形、売掛金 及び契約資産	1,697	1,451	▲245
流動資産合計	3,988	3,974	▲14
有形固定資産	285	354	+69
のれん	1,348	1,212	▲136
ソフト+ソフト仮	193	194	+1
無形固定資産	1,542	1,406	▲135
投資その他の資産	683	714	+31
固定資産合計	2,511	2,476	▲35
資産合計	6,499	6,450	▲49

負債の部	FY2024	FY2025 3Q末	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
買掛金	256	284	+28
短期有利子負債	921	426	▲494
未払金	545	646	+100
流動負債合計	2,560	1,850	▲709
長期有利子負債	684	1,182	+498
固定負債合計	685	1,183	+497
負債合計	3,246	3,034	▲212
純資産の部			
株主資本合計	3,241	3,383	+141
純資産合計	3,253	3,416	+162
負債純資産合計	6,499	6,450	▲49

ソフトウェアテスト事業

生成AIテストツール開発&実装を
中心に新中期経営計画戦略の実施



生成AIテストツールの
開発&実装で
生産性の向上



自社開発ツールへの
生成AI機能連携で
テスト全工程の自動化



ボトルネック解消
施策の継続

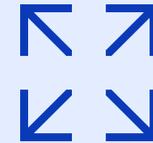
PM層/ハイレイヤー及び
営業人員の採用強化



ツール&教育
人に依存しない
ビジネスの拡大

開発事業

ホールディングス体制の深化
によるグループ間連携の拡充



クロスセル・グループ営業
の強化



M&Aによる顧客課題解決
新技術及び新サービス獲得

セキュリティ事業

セキュリティ対策の
ワンストップサービス



診断員の教育・人員増強



セキュリティサービスの拡充

働きがいと働きやすさを高いレベルで両立する取り組みが評価

働きがいと働きやすさを両立させる制度・文化づくり

- 形式的な制度整備にとどまらず、“社員が安心して成長し続けられる循環型の成長環境”を整備
- 入社研修+年間70講座以上の社内研修「バルゼミ」で主体的に学び続けられる仕組みを提供

社員の貢献を称える文化の浸透

- 「レンジャー賞」「Best of VALTES賞」などの表彰制度が定着
- 称賛が自然に行き交う文化が根付き、働きがい向上に貢献
- 部門を越えたつながりや学び合いを生む風土として評価



主催:一般財団法人 日本次世代企業普及機構(ホワイト財団)

多様な働き方・ライフステージを支える制度の充実

フレックスタイム

在宅勤務手当

リフレッシュ休暇

育児休業

▶ 多様な働き方を支える制度が高評価

心理的安全性とコミュニケーション活性の工夫

- 「会長のおごり自販機」による偶発的コミュニケーション
- 部門を越えた学び合い文化

▶ 自然な繋がりが生まれる組織作りが評価

育成を標準化し、“高スキル人材”を組織的に輩出

取得率 95%

JSTQB® Foundation Level
(2年目以降社員対象/2025年12月末時点)

育成設計を標準化

入社時研修～実務定着～資格取得までを一体運用



バルテスは品質技術およびテスト技術の向上に尽力を評価され、国際ソフトウェアテスト資格認定委員会ISTQBより最高位「Global Partner」に国内で初めて認定されました。

取得率向上を支える3つの育成基盤

標準テストメソッド「QUINTEE」

創業以来の知見を体系化
判断軸・手順を揃え、現場で品質を担保する“共通言語”

社内研修「バルゼミ」

70講座以上を自由に受講
テスト技術・資格・ビジネススキルまで継続学習を促進

資格取得支援制度

勉強会・問題集配布
合格時の受験料+報奨金支給で挑戦を後押し

育成設計の標準化により、“属人化しない高スキル人材”を継続的に輩出

※ JSTQB® : ISTQB®準拠のソフトウェアテスト技術者資格 ※ 数値は当社集計

バルテス・ホールディングス株式会社が出資および業務提携をおこなう
株式会社FUNDINNOが2025年12月5日(金)付で
東京証券取引所グロース市場へ新規上場しました。(証券コード:462A)



株式会社FUNDINNOは、株式投資型クラウドファンディング「FUNDINNO」を運営し、個人投資家とベンチャー企業をつなぐ資金調達プラットフォームを提供しています。透明性の高い審査体制により、スタートアップ市場の健全な成長に貢献しています。

株式会社FUNDINNOが展開する6つのサービス



未上場ベンチャー企業と個人投資家をつなぐ、株式投資型クラウドファンディング事業



未上場株式の売買機会を提供する、日本初のセカンダリーマーケット事業



大型資金調達やレイターステージ企業にも対応した、成長企業向け資金調達支援事業



未上場株式の大口取引に対応した、成長企業向けセカンダリー市場事業



取締役会・株主総会・IR配信を効率化する、未上場企業向けガバナンスSaaS事業



未上場企業とCxO・専門人材をつなぐ、人材紹介・採用支援事業

鉄道事業者初のコード決済サービス「Wesmo!」において、バルテスがテストフェーズを全面支援



西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) <https://www.westjr.co.jp/>

JR西日本は「人、まち、社会のつながりを進化させ、心を動かす。未来を動かす。」という志のもと、西日本エリアを中心に運送業、流通業、不動産業などを展開しています。

対象プロジェクト

鉄道事業者初のコード決済サービス「Wesmo!」テストフェーズ全面支援

支援背景

JR西日本グループは、デジタル戦略強化の一環として、2025年5月にコード決済サービス「Wesmo!」を提供開始しました。多くのシーンで利用される決済サービスであることから、**高い安全性と品質の確保**が不可欠であり、開発が佳境を迎えるなか、**限られた時間で確実な品質担保**が求められていました。そこで、テストフェーズのパートナーとしてバルテスが選定され、品質向上支援を実施しました。

評価していただいたポイント



品質に対する考え方の定着・成長につながった



第三者の客観的な視点による的確な指摘



最後まで品質面で伴走する支援体制



想定外の利用シーンも見据えた徹底した検証



西日本旅客鉄道株式会社の導入事例は当社サービスサイトのこちらからご覧ください。 <https://service.valtes.co.jp/s-test/case/westjr/>

電子カルテクラウド化に伴う短期アップデート対応に伴い、バルテスが上流からの品質向上を支援



株式会社島津製作所 <https://www.shimadzu.co.jp/>

島津製作所は、1875年の創業以来、「科学技術で社会に貢献する」を社是として、社会課題と向き合っています。分析・計測機器、産業機器や航空関連機器は、食品、環境エネルギー、インフラ、医薬、化学、半導体など多くの産業分野で、お客様の事業への貢献を通じて、社会の安全、安心を守り、利便性を向上させる役割を果たしています。

対象プロジェクト

無床診療所向け統合型電子カルテシステム「SimCLINIC T4 Cloud™」リニューアル支援

支援背景

医療のデジタル化により電子カルテのクラウド化が進み、「SimCLINICT4Cloud™」も中小医療機関で広く利用されています。一方、制度改定に伴う年次更新とテストを約2カ月で完了させる必要があり、限られた体制のなかで品質確保と効率化の両立が課題となっていました。この状況を改善するため、島津製作所はバルテスの第三者検証を導入しました。

評価していただいたポイント



開発に集中できる環境づくり



第三者視点による仕様の指摘



テストの進め方が整理され効率が向上



品質向上につながる網羅的かつ精度の高いテスト



株式会社島津製作所の導入事例は当社サービスサイトのこちらからご覧ください。 <https://service.valtes.co.jp/s-test/case/shimadzu/>

新勘定系を中心とした大規模基幹システム刷新。バルテスがユーザー受け入れテストを全面支援



ソニー銀行株式会社 <https://sonybank.jp/>

ソニー銀行はインターネットを活用した個人のための資産運用銀行です。「フェアである」ことを企業理念に掲げ、円預金、外貨預金、投資信託、住宅ローン、Visa デビット付きキャッシュカード Sony Bank WALLET などさまざまな金融商品・サービスを提供しています。

対象プロジェクト

ソニー銀行 基幹システム全面更改（新勘定系） Fujitsu Core Banking xBank（大規模金融基盤）

支援背景

ソニー銀行は、多様な金融商品を提供するネット銀行として、**安全性と品質を重視**しています。今回の基幹システム全面更改では、工程管理が厳しく、通常業務と並行した**UATの実施が困難**でした。品質と納期を確保するため、当社の**専門性、柔軟な体制、大規模支援の実績**をご評価いただきUATのアウトソーシングパートナーとしてバルテスを選定いただきました。

評価していただいたポイント



理解力と柔軟な対応



第三者目線での適切な指摘



主体的な取組と責任ある姿勢



テストの網羅性と高精度



ソニー銀行株式会社の導入事例は当社サービスサイトのこちらからご覧ください。 <https://service.valtes.co.jp/s-test/case/sony-bank>

仕様変更・改善・引き継ぎを前提に、運用まで回る開発体制を支援

グループ会社の株式会社アール・エス・アール（以下RSR）が、要件整理から実装・テストまでにAIを活用し、PoCで終わらせず本番運用と継続的な改善までを見据えた「AI駆動開発（AI-DLC ※）」の提供を開始

サービス概要

MVP立ち上げ ブースト (新規開発)



PoC本番化リビルド (既存PoC/試作品)



Growthブースト (既存プロダクトの改善)



AI駆動開(AI-DLC) 発導入支援(内製/標準化)



■ 特長

人の判断とAIの効率化を組み合わせ、変更に強い開発プロセスを採用しています。

要求～要件・基本設計

目的・優先度・設計方針を明確化し、**認識ズレや抜け漏れによる手戻りを防止**

製造～単体テスト

実装ルールを統一し、**コード品質を揃えつつレビュー・引き継ぎを容易に**

結合～システムテスト

受け入れ観点を合意したうえでテストを実施し、**変更後の確認を迅速化**

■ 今後の展望

RSRは、バルテスグループ内の複数プロダクトにおいて、MVPの立ち上げからPoCの本番化、運用開始後の改善まで、プロダクト開発の各フェーズで支援をおこなってきました。こうした実績をもとに、バルテスが培ってきたソフトウェア品質向上の知見と、RSRの開発・実装力を掛け合わせることで、**AIを活用した開発においても運用・改善が継続できるプロダクト開発体制の構築**を支援してまいります。

RSR
Real System Research Co.,LTD.

※ 「AI Development Lifecycle」 のこと。AWS が提唱する、AI を活用したシステム開発を、要件定義から開発・テスト、運用・改善 まで一連の流れとして捉える開発ライフサイクルの考え方

3

業績見通し

「生成AIテストツール開発への積極投資」等※1へ4億円以上の投資を見込む

投資対象

① 生成AIテストツール開発

② 生成AIテストツールのマーケティング強化

③ AI人材を含むハイクラス人材の採用強化

	FY2024 実績※3		FY2025 予想	FY2025 予想		
	(百万円)	売上高比 (%)		(百万円)	売上高比 (%)	対FY2024 増減 (百万円)
売上高	10,795	100.0	12,000	100.0	+1,204	+11.2
営業利益	940	8.7	650	5.4	△290	△30.9
(参考) AI投資前営業利益	940	8.7	1,050	8.8	+109	+11.6
EBITDA ※2	1,182	11.0	930	7.8	△252	△21.3
経常利益	944	8.7	647	5.4	△297	△31.5
親会社株主に 帰属する当期純利益	589	5.5	390	3.3	△199	△33.8
1株当たり 当期純利益 (円)	29.23	—	19.69	—	—	—

※1 PM層/ハイレイヤー及び営業人員不足によるボトルネック解消施策投資を含む

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 (PPA含む) で算出

※3 企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更せず、発表時のままの記載とさせていただきます

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

「生成AIテストツール開発への積極投資方針」に基づいた以下投資対象への年4億円投資計画のうち、当第3四半期までに約2.2億円の投資を完了（営業利益への影響は2.1億円）

実施計画

1 生成AIテストツール開発

2 生成AIテストツールのマーケティング強化

3 AI人材を含むハイクラス人材の採用強化

年間投資計画

400百万円

3Q累計実績

(百万円)

1 生成AIテストツール開発	PL影響 研究開発費	165
	BS影響 ソフトウェア仮勘定で資産計上	10
小計		176
2 生成AIテストツールのマーケティング強化		16
3 AI人材を含むハイクラス人材の採用強化 (教育・社外AIツール利用含む)	PL影響 採用強化コスト	29
	BS影響 採用強化固定資産等	3
小計		32
3Q累計 AI関連投資額 (BS含む)		225
投資進捗率 (3Q実績/計画値 年4億円)		56.3%
同投資額の内 PLへのインパクト		211

2026年3月期 AI関連投資を反映した対通期進捗率

生成AI関連PL影響投資額 **2.1億円**を控除したAI投資前営業利益の進捗率は**72.3%**

前年同期進捗率**58.3%**（3Q営業利益実績/4Q営業利益実績）を**上回る**※

3Q投資額 **2.1億円**
(PL影響額)

1 生成AIテストツール開発

2 生成AIテストツールのマーケティング強化

3 AI人材を含むハイクラス人材の採用強化

	FY2024 3Q実績		FY2025 3Q実績				FY2025 予想 (百万円)	3Q 進捗率 3Q/予想 (%)
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2024 増減 (百万円)	対FY2024 (%)		
売上高	7,876	100.0	8,705	100.0	+829	+10.5	12,000	72.5
営業利益	541	6.9	548	6.3	+7	+1.3	650	84.3
(参考) AI投資前営業利益	541	6.9	759	8.7	+218	+40.3	1,050	72.3
EBITDA ※2	725	9.2	759	8.7	+34	+4.7	930	—
経常利益	541	6.9	546	6.3	+5	+1.0	647	—
親会社株主に 帰属する当期純利益	341	4.3	333	3.8	▲8	▲2.5	390	—
1株当たり 当期純利益 (円)	16.96	—	16.84	—	—	—	19.69	—

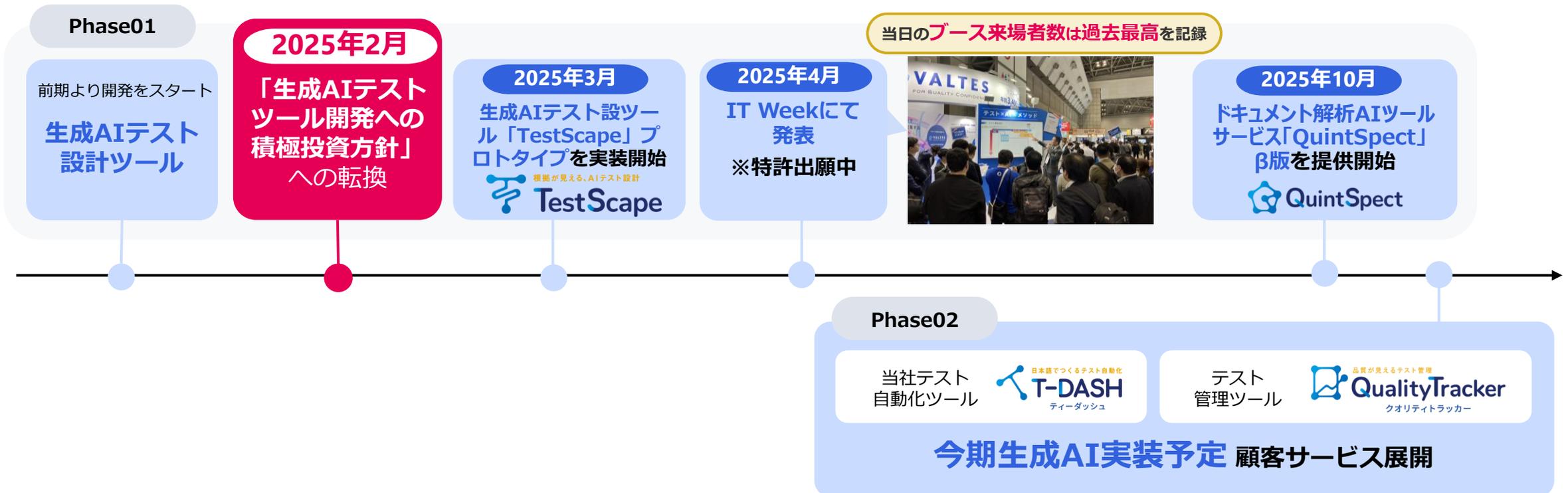
※当期後半はほぼすべての開発コストがAI開発に切り替わっているため、AI開発コストそのものが対前期で純増しているわけではありません。従って前期営業利益と当期AI投資前営業利益を単純比較することはできない点ご理解願います

4

生成AIテストツール開発投資方針

「生成AIテスト設計ツール」 自社開発とAI積極投資方針への転換

生成AIの拡大による事業機会とリスクに対応するため、当社ではいち早く「生成AIテスト設計ツール」開発を進めてまいりました。当社が蓄積した膨大な過去抽出データ※を利用することで本開発は順調に進捗し、2025年2月にはこれらの開発加速に向けた「生成AIテストツール開発への積極投資」方針への転換を決定いたしました。その後同年3月には生成AIテスト設計ツール「TestScape」プロトタイプを、同年10月にはドキュメント解析AIツールサービス「QuintSpect」β版をローンチし、順調にAI投資開発を拡大しております。



※ 生成AIテストツール開発における当社の強みは、テスト専門会社として培った豊富な実績データによって、多様なドメインに対し、より実践的で効果的なテストケースを提供できる点にあります。本開発においては顧客情報を一切使用せず、当社内のテスト実績データのみを活用しております。



生成AIテストツール開発における当社優位性

優位性
01

▶ **自社開発のテストツール群によりテスト工程全般を網羅（業界随一）**
テスト設計～実行まですべての工程でツールを自社開発、近い将来生成AI連携が可能
当社は既にテスト自動化ツール「T-DASH」をはじめとしたテストツールを自社開発しており、これらのツールに生成AI機能を拡大することで、全てのテスト工程を自動化することが可能です。現時点で、テスト関連ツール群を自社開発しているテスト会社は国内では当社のみであり、国内テスト市場において、大きな優位性を有していると自負しております。

優位性
02

▶ **生成AIテスト設計ツール「TestScape」を先行実装**
2025年3月に生成AIテスト設計ツールのプロトタイプ版を実装済
当社は従前より生成AIテスト設計ツールの開発をすすめ、2025年2月時点で高い精度に達したことから、同3月に社内実装を開始しております。今後は実務領域での同ツール利用を促進することで、生成AI機能の強化を進めてまいります。

優位性
03

▶ **ソフトウェアテスト専門事業者として20年にわたる実績**
生成AIを利用した開発に必要な専門性の高い情報を大量に保有
当社は年間3000件を超えるテスト設計情報を過去20年間にわたり蓄積しており、「専門性の高い情報を大量に保有」しているため、生成AIの活用に適した状況にあります。



生成AIと描く当社の未来

技術的
未来

ソフトウェアテストの全工程の自動化

当社テスト設計からテスト実施まで、すべての工程において生成AI機能を自社ツールに実装し、各ツールの連携をすすめることで、ソフトウェアテストのすべての工程を自社開発ツールで全自動化することを目指します。

人的
資本

テストエンジニアからAI-テストデザインコンサルタントへの成長

当社のテストエンジニアは生成AIテスト設計ツール「TestScape」を始めとした当社開発テストツールとそのAI連携機能の習熟度を高めることで、顧客の開発案件に対し、生成AIテストツールによるテスト自動化の設計提案とその実行を伴走できる戦略的ディレクター「AI-テストデザインコンサルタント」への成長を目指します。



成長戦略（新中期経営計画）

生成AIテストツール開発への積極投資方針を従前の中期経営計画に反映したローリングプラン

▶ 新中期経営計画で内容を更新

中計Vision

ソフトウェアテスト市場の社会的価値を高めるバリューアッププラットフォームへ

▶ 生成AIテストツール開発投資によって最大事業のソフトウェアテスト事業を「労働集約型ビジネス」から「人に依存しないビジネス化」

Visionコンセプト1.2

コンセプト① バルテス品質を業界へ波及させるビジネスモデルの構築
▶ ソフトウェアテスト業界の社会的価値向上で更なる市場拡大を誘引

コンセプト② 生成AIテストツール開発への積極投資によって
▲コンセプト更新
人に依存しないビジネスモデルの強化・拡大
▶ 人に依存しない事業比率向上でグループの生産性を向上

コンセプトに基づく5つの基本戦略

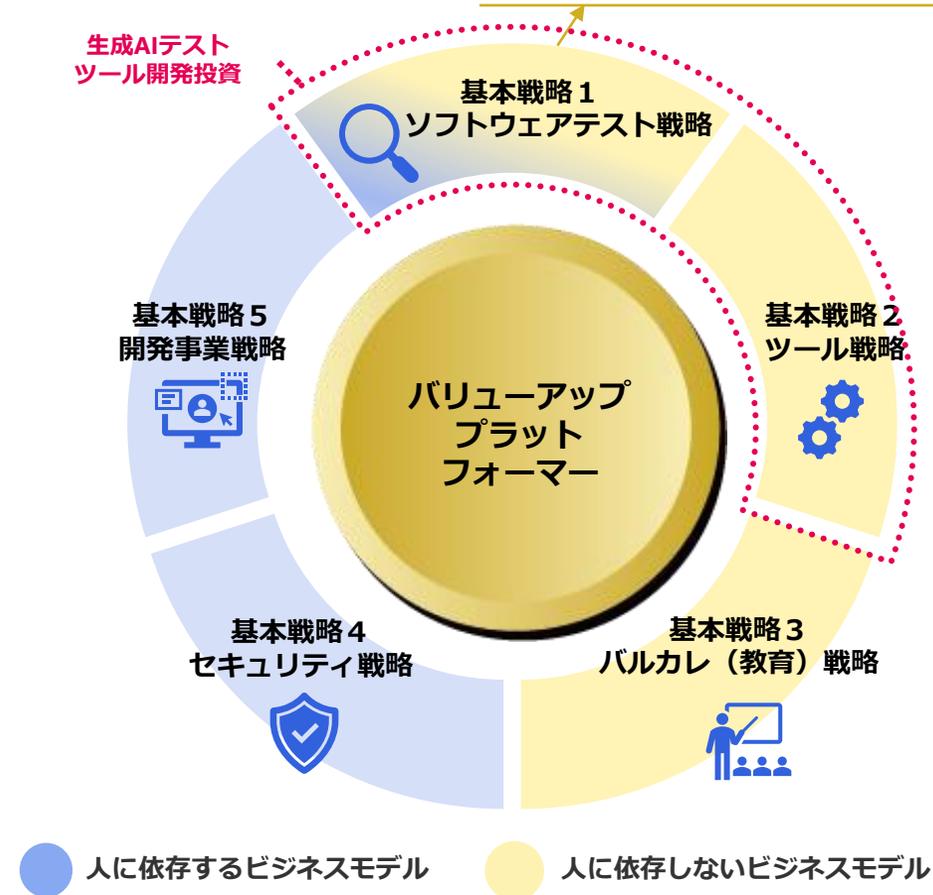
基本戦略1：ソフトウェアテスト戦略 ◀生成AIテストツール投資で戦略更新 ◀ボトルネック解消施策継続

基本戦略2：ツール戦略 ◀生成AIテストツール投資で戦略更新

基本戦略3：バルカレ（教育）戦略

基本戦略4：セキュリティ戦略

基本戦略5：開発事業戦略



▶ 新中期経営計画で内容を更新

新中期経営計画（3か年）

■ 生成AIテストツール投資（3か年）

生成AIテストツール開発投資
各年4億円を目安

3か年計 **12** 億円

■ BS戦略投資（3か年）

主にM&A投資
事業所投資

3か年計 **25** 億円

■ 還元施策

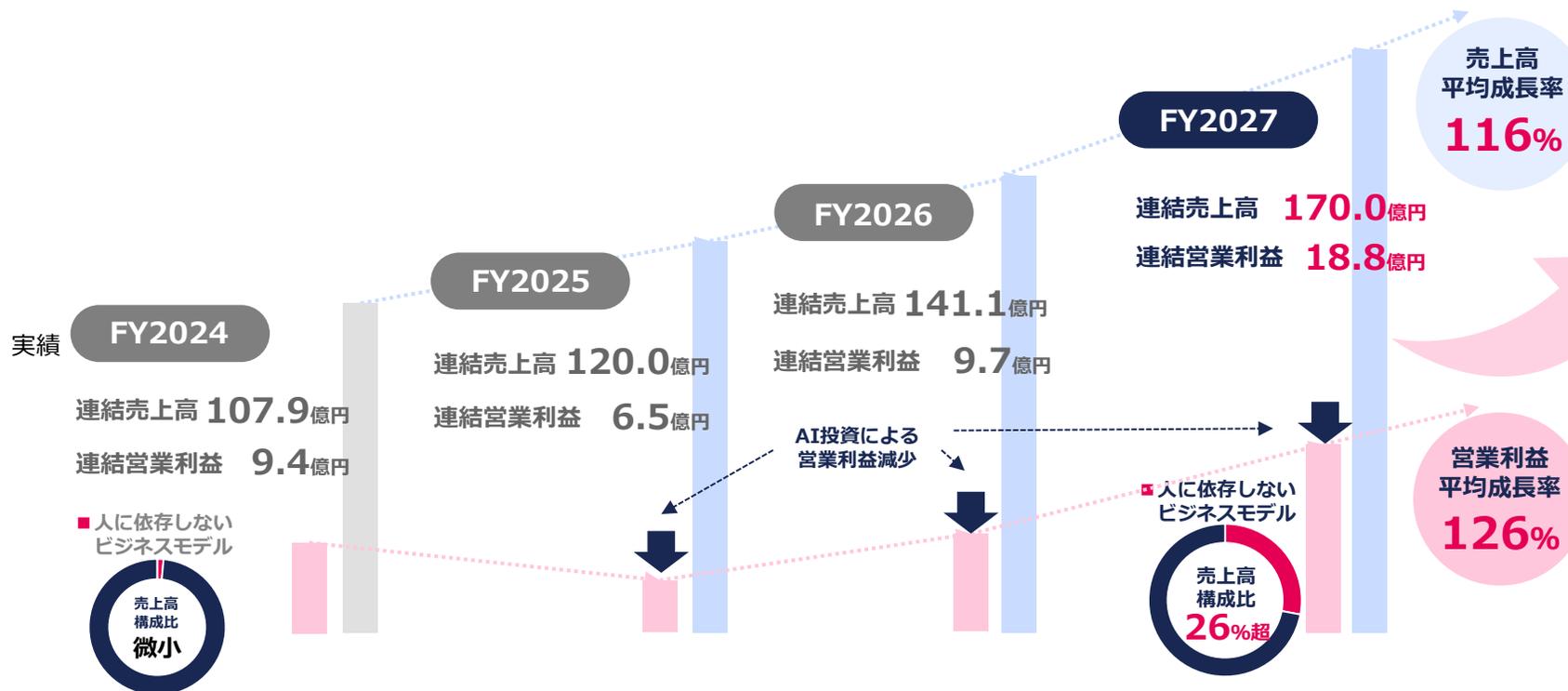
投資優先で成長によるキャピタルゲインで還元

■ 配当

3か年計 **2.4** 億円

■ AI開発応援・株主優待

3か年計 **2.4** 億円



10年先のVISION

バリューアッププラットフォーム

バルテス品質を業界へ波及

■ 人に依存しない
ビジネスモデル

売上高構成比

80%超

売上高
平均成長率

116%

営業利益
平均成長率

126%

■ 人に依存しない
ビジネスモデル

売上高
構成比

26%超

重点施策「生成AIテストツール開発投資戦略」の骨子

▶ 新中期経営計画で新設

最大事業であるソフトウェアテスト事業の生産性向上と、IT人材の採用難克服で成長を持続

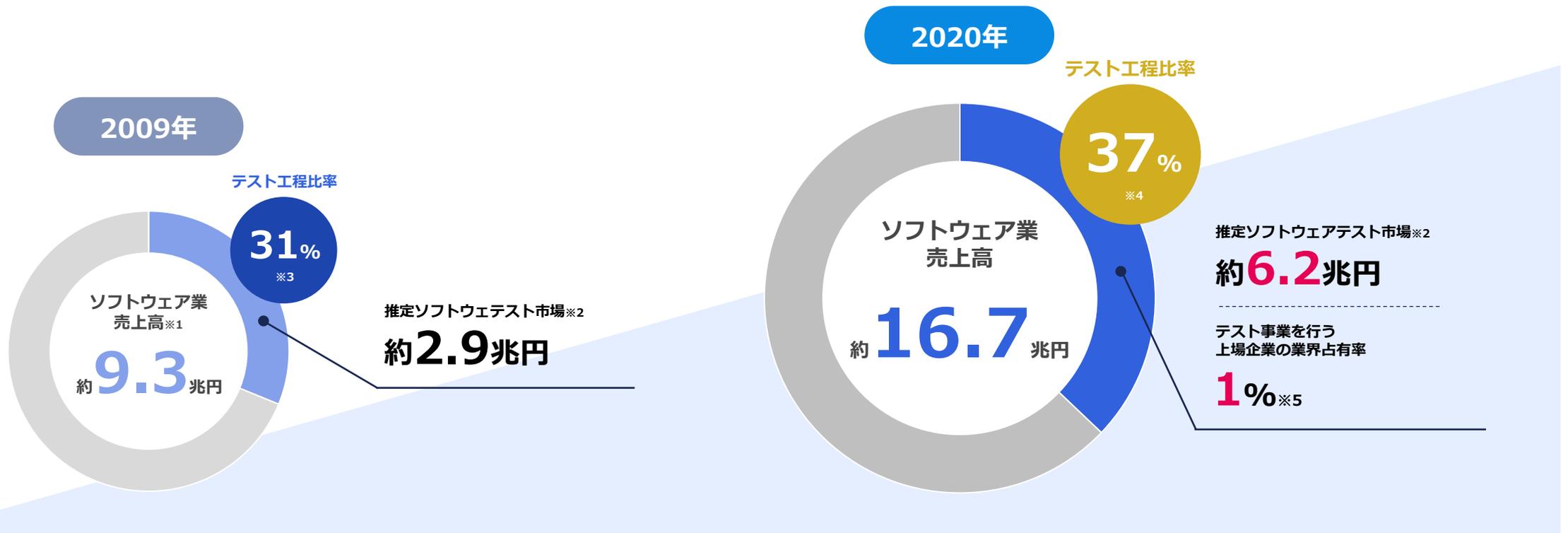


6

ソフトウェアテスト事業環境

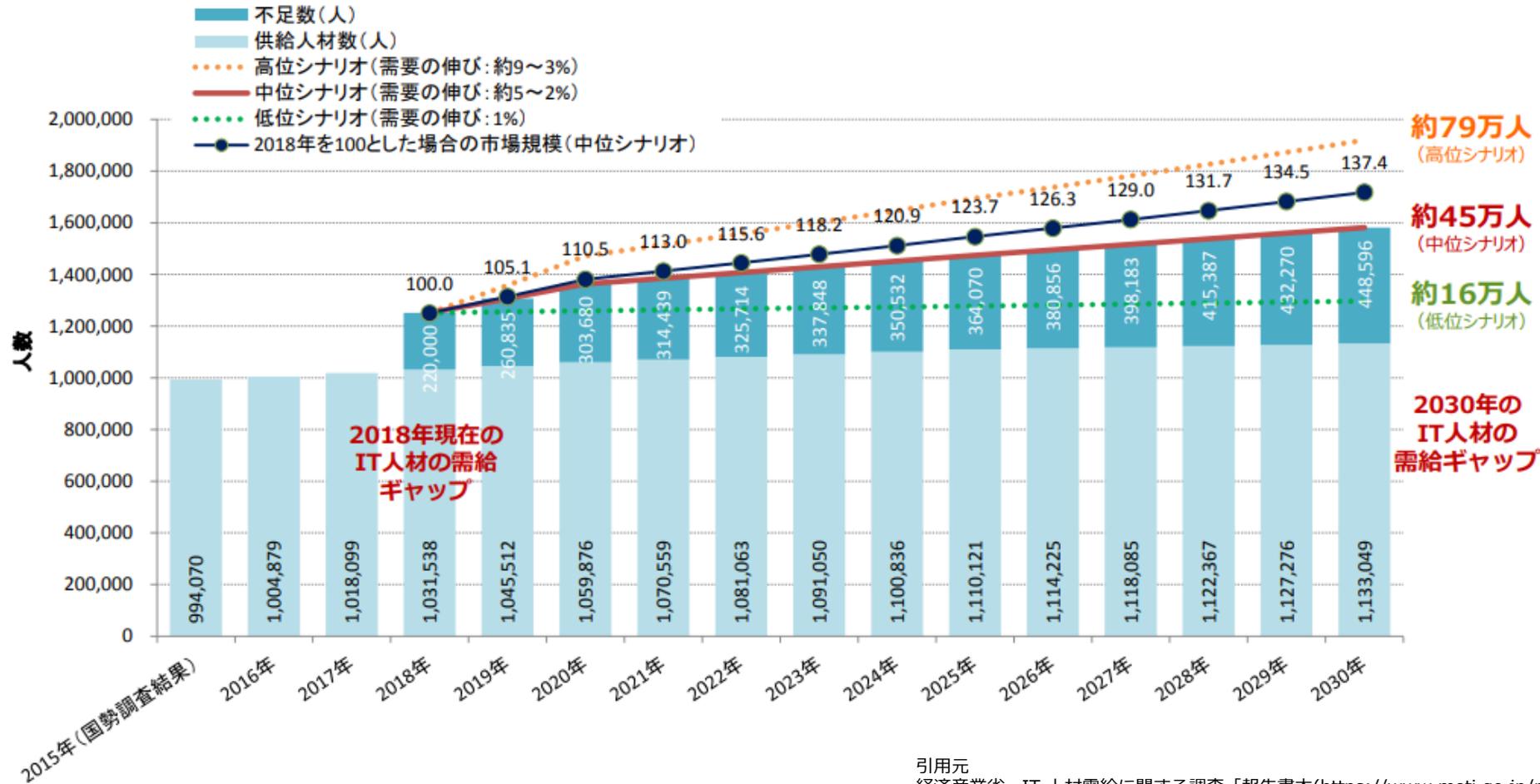
当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約6.2兆円

■ ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より ※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出 ※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より ※5 テスト・デバック事業をメインとする上場企業の売上合計より

ソフトウェアテスト市場規模拡大の一方、担い手のIT人材は不足



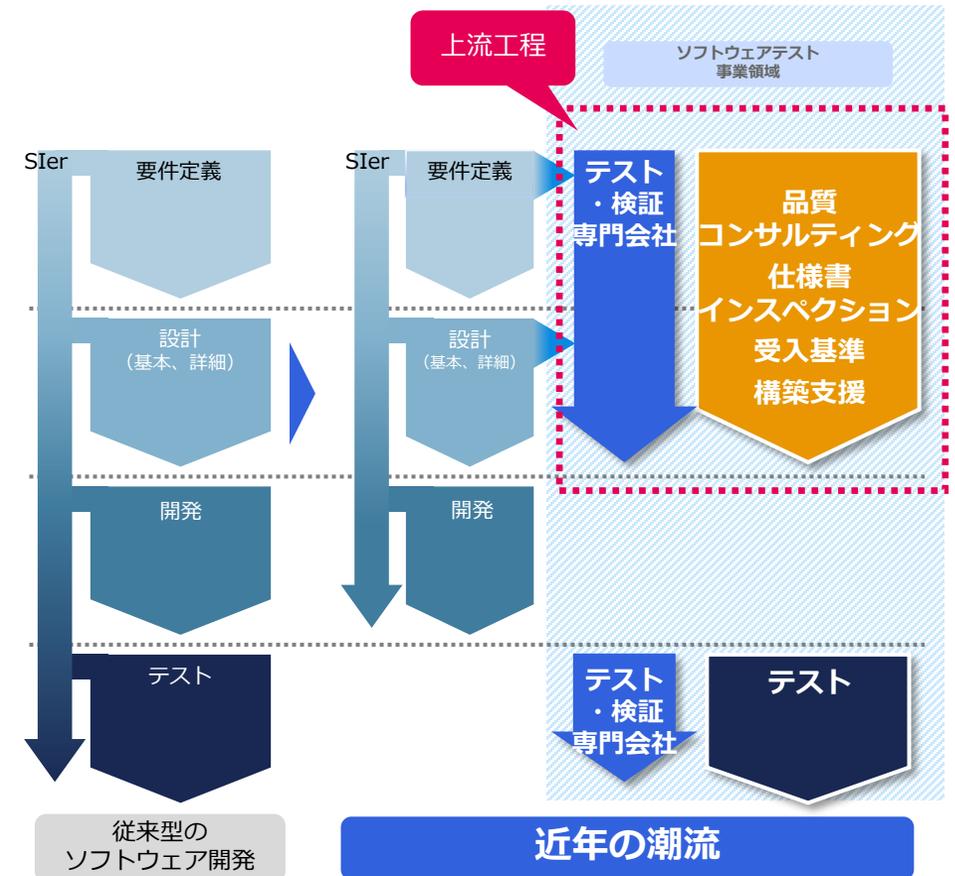
ソフトウェアテスト
専門業者への
需要は増加

引用元

経済産業省 IT人材需給に関する調査「報告書本(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf)」
図 3-11 IT人材需給に関する主な試算結果①②③の対比(生産性上昇率0.7% IT需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

ソフトウェアテストは開発企業から**テスト専門会社**へ 品質向上を目指すユーザー企業など**上流工程**からの依頼も増加

	開発企業によるテスト	テスト専門会社によるテスト
品質	<ul style="list-style-type: none"> テストは開発エンジニアのモチベーションが上がらず非効率 開発エンジニア自身のテストは客観性が無く信頼性に欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> 再現性・共有性の高いテスト方法やメソッドを確立網羅的で高効率なテストが可能 上流工程からの参画により、ソフトウェア自体の品質が向上
コスト	<ul style="list-style-type: none"> コスト高な開発エンジニアの労働時間の約40%がテスト工程 	<ul style="list-style-type: none"> 開発エンジニアのテスト実施と比べ60%~70%程度※で対応可 ※当社調べ 上流工程からの参画により、手戻りコストを削減
構造	<ul style="list-style-type: none"> 大手SIerが一括受注し、下請けに開発を発注、その開発エンジニアがテストも実施 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者のテスト専門会社によるテストの有効性が注目 ユーザー企業など上流工程からの依頼も増加





自社の強み

人的・技術的優位性

- ソフトウェアテストに関する専門教育を受けた正社員500名超
- JSTQB※1高保有率
- ISTQB※2 Global Partner 日本初認定
- 年間約4,000※3プロジェクト、1,200社以上の導入実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- 専門技術人材を供給可能な外部協力会社ネットワーク
- ISO/IEC/IEEE 29119※4準拠テンプレート
- QUINTEE®※5（テストの進行基準）

※1 JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと
 ※2 ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと
 ※3 ツール案件を含む
 ※4 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
 ※5 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

エンタープライズ領域へのナレッジ蓄積

- 潜在市場が大きい、高度な技術を要するエンタープライズ領域拡大のため専門部署を設置
- エンタープライズ領域における専門ナレッジの蓄積

エンタープライズ領域の特長

- 単価：高 案件規模：大 契約期間：長
- 開発、業務知識等、テスト以外の知識を求められる
→ 難易度：高 参入障壁：高
- マイグレーション等※6の増加で市場：拡大 潜在市場：巨大

	当社の事業領域	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト 工程 市場	エンタープライズ	巨大	黎明期	高
	組込み	大	黎明期	高
	Web・スマホ	中	成長期	中
	エンターテインメント	小	成熟期	低

※6 ソフトウェアやハードウェア、システム、データ、開発言語などを別のプラットフォームに移行したり、新しいシステムに切り替えたりすること

専門性の向上によって強固な参入障壁を構築し、価格競争を回避

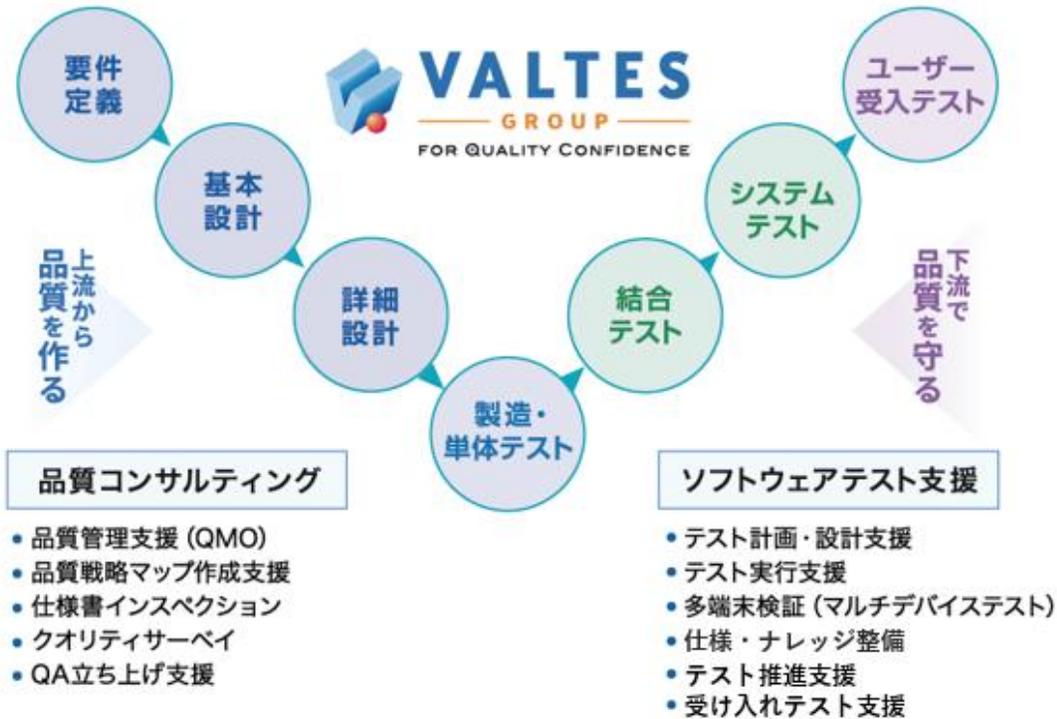
自社の強み② バルゼミを始めとした人材育成コンテンツ 人材早期育成メソッドの充実

バルゼミを始めとした育成コンテンツ・メソッドの充実で**早期人材育成が可能**



自社の強み③ 要件定義、基本設計等の上流工程から ソフトウェア品質向上支援サービスを提供可能

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質向上支援サービスを提供



品質教育

バルカレ
一歩先ゆく品質のプロを育てる

バルカレ 企業向け講座 バルカレ オープン講座

バルカレ eラーニング

テストツール

ドキュメント品質を高める新AI
QuintSpect

自動化されるAIテスト設計
TestScape

いつでも、どこでも
QualityTracker **PerfecTwin**

仕事でつくるテスト自動化
T-DASH いつでも、どこでも
AnyTest

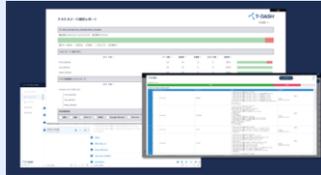
総合的ソリューション提供で
顧客IT部署の**負担軽減**と
工数削減による
コストメリットの提供が可能

マイグレーションテスト支援	DX支援	非機能要求	セキュリティ
アジャイル開発テスト支援 テスト自動化導入・定着支援	<ul style="list-style-type: none"> AIプロダクト品質向上支援 ローコード品質向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザビリティテスト (UI/UX・アクセシビリティ) Webアクセシビリティ検証 パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 脆弱性診断 クラウド診断 ペネトレーションテスト クラウド型WAF (PrimeWAF)

自社の強み④ ソフトウェアテストサービスの実績に基づいた テスト・品質向上支援ツールを自社開発

ソフトウェアテストを効率化し、**高品質とリリースのスピードアップ**を実現

■ テスト自動化ツール



日本語で作成したテストケースで
自動テストを実現したテスト自動化ツール

■ テスト管理ツール



テスト実施に特化した管理ツールEVMによる管理で、
品質向上の見える化を可能に

■ クラウド型モバイルテストサービス



ブラウザ上でスマートフォンの実機を操作。実端末の
購入・保管・移動などの手間を軽減

■ AIテスト設計ツール



弊社独自のAIが仕様書からテストケースを自動生成。
テスト設計書などの中間生成物も自動的に作成

■ ドキュメント解析AIツール



要件定義書などのドキュメントを弊社独自のインスペク
ション観点で分析。AIが問題点や改善点をレポート

顧客・業界に
**品質向上及び
開発短期化メリット
を提供**

Coming soon . . .

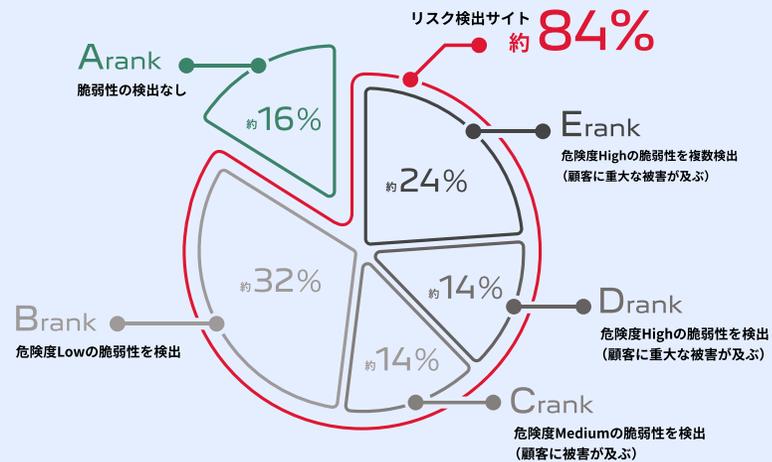


テスト・品質向上支援ツールの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。

<https://service.valtes.co.jp/s-test/tool/>

脆弱性診断を始めとしたセキュリティサービスの拡充

脆弱性診断



※2020年1月～2020年12月までに当社がセキュリティ診断を実施したサイトの一部から抜粋

診断結果の約84%のサイトで危険なリスクが検出された！
1,000件以上の実績により、
ツールでは見つからない脆弱性※も多数検出

※ なりすましが出来てしまうアクセス制限に関する脆弱性

セキュリティサービス



ペネトレーションテスト (侵入テスト) サービス

セキュリティ対策の専門家が、実際に攻撃者と同じ視点・手法でシステムに侵入を試み、リスクや脆弱性を評価



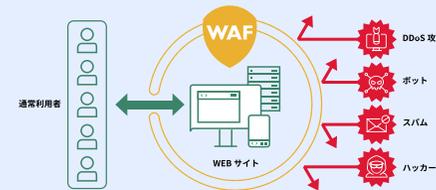
クラウド診断サービス

クラウドプラットフォームやシステムの利用状況におけるセキュリティ上の問題を診断



セキュアプログラミングのソフトウェア品質セミナー

安全なWebサイト構築のためのセミナーを実施



WAF PrimeWAF

Webアプリケーションの脆弱性を悪用した攻撃からサイトを保護するセキュリティ対策サービス。セキュリティ診断・脆弱性診断に実績があるバルテスが提供する新たなクラウド型WAFサービスPrimeWAFを展開。

当社が主力とする
品質向上サービス
と併せて
セキュリティに関する
トータルな提案が可能



セキュリティサービスの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。 <https://security.valtes.co.jp/>

ソフトウェアテスト専門事業者としての豊富な実績を活かした生成AIテスト設計ツール「TestScape」

蓄積された実績とテスト基準

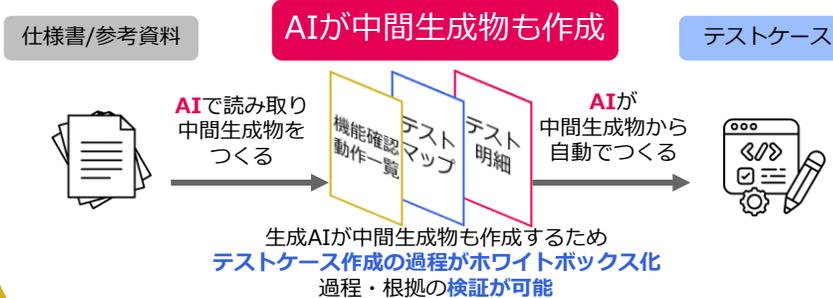
- 直近年間約4,000※1プロジェクト、1,200社以上の導入実績
- ソフトウェアテスト専門事業者として20年を超える業歴・膨大なテスト実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- ISO/IEC/IEEE 29119※2準拠テンプレート
- 当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したテスト進行基準「QUINTEE®※3」

※1 ツール案件を含む
※2 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
※3 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

当年3月
生成AIテスト
設計ツール
「TestScape」
プロトタイプ版
を自社実装

中間生成物の作成で生成AIの透明性確保

バルテスの生成AI 過程や根拠が説明できる！



他の生成AI 過程や根拠が不明



他の生成AIの場合、テストケースのみ吐き出す仕様のものが多く、
裏付ける中間生成物が存在しないブラックボックス

高精度・透明性の
高い生成AIテスト
ツールの開発で
競争優位

ツールの利用で
生産性向上

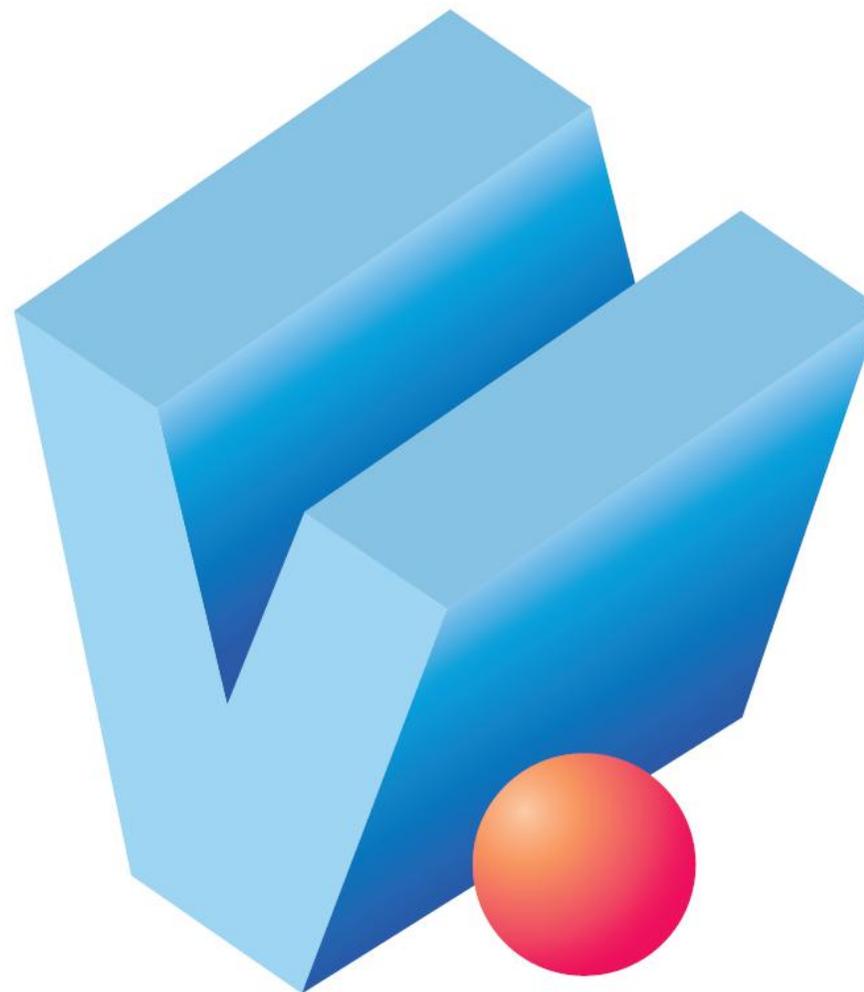
8

会社概要

FOR QUALITY CONFIDENCE

品質向上のトータルサポート企業

バルテスグループは、品質向上のトータルサポート企業として、ソフトウェアテストをはじめ、さまざまなサービスを提供しています。世の中のあらゆるものに組み込まれるソフトウェアの品質を守り、向上させることで、安心・安全な世界の実現に貢献します。



「品質向上のトータルサポート企業」経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス・ホールディングス株式会社
会社設立	2004年4月 ※2023年10月持株会社体制移行により社名変更
上場	2019年5月 東証マザーズ (現 東証グロース 証券コード: 4442)
本社住所	大阪市西区阿波座 1-3-15 (大阪本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
グループ会社	バルテス株式会社 バルテス・イノベーションズ株式会社 (4月1日バルテス・モバイルテクノロジー株式会社がフェアネスコンサルティング株式会社を吸収合併) 株式会社アール・エス・アール 株式会社ミント 株式会社シンフォー VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines) タビュラ株式会社
従業員数	980名 (2025年12月末時点 グループ8社計)
内、総エンジニア数	844名 (2025年12月末時点 グループ8社計)
総資産	6,450百万円 (2025年12月末時点 グループ8社連結)



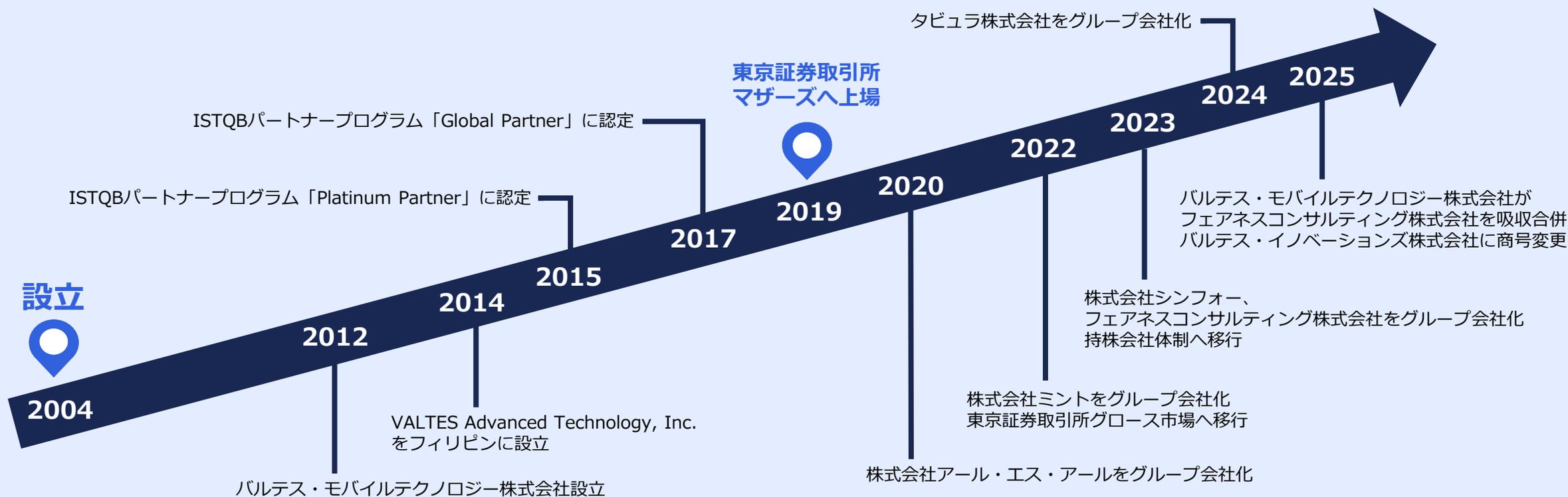
代表取締役会長兼社長

田中 真史

Tanaka Shinji

2004年4月、設立。ソフトウェア品質に関わるサービスを提供。

ソフトウェアテスト専門会社として、年間4,000件※以上のプロジェクト実績



※ ツール案件を含む

持株会社（当社）



グループ経営管理機能／教育関連機能

事業グループ会社



事業推進・執行機能

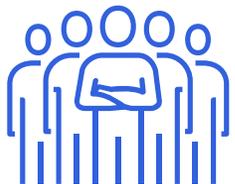
サステナビリティ委員会の設置

サステナビリティに係る取組みや、環境・人権方針の策定、当社グループへの浸透と進捗状況のモニタリングを実施



社外取締役の積極登用

高度な専門性を持つ社外取締役の登用で、当社グループの成長加速とガバナンスの強化へ



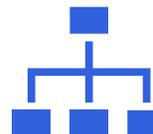
取締役7名中、
過半数の5名が社外取締役

監査等委員会設置会社への移行



取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を取締役会の構成員とし、取締役会の監督機能を強化

持株会社体制への移行 執行役員制度の導入



持株会社及び各事業会社の権限と責任を
明確化及び管理機能の集中化、
迅速な意思決定と適切なモニタリングの両立と、
経営重要事項の決定・監督を担う取締役会と執行責任を負う
執行役員との役割分担明確化及び機能強化を目指す

Create Wellness

人と社会に品質を

当社グループでは、「人と社会に品質を」を合言葉に、豊かな知見から生まれた教育プログラムと安心・安全を支えるサービスの提供を軸としたサステナビリティ活動を推進しています。

次の時代を担う人材（Employee）を育成することで、環境（Environment）と社会（Society）への取り組みを加速し、コーポレート・ガバナンス（Governance）体制を強化していく「E+ESG経営」を実践しています。



取り組みの詳細については、当社ホームページ サステナビリティサイトをご覧ください。

<https://www.valtes-hd.co.jp/sustainability/>

バルテスグループ×SDGs



ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、

この計画・予想などとは異なる場合があります、

この資料は その実現を確約したり、保証するものではありません。

なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。





VALTES

— **GROUP** —

FOR QUALITY CONFIDENCE